

# はじめての英単語カレンダー

## 利用の手引き（指導者・学校向け）

私たちは、毎日の暮らしの中でたくさんの英単語を見聞きしています。これらを授業の中で学んだ語と結びつけられるようになれば、1000語を2倍、3倍にすることは難しいことはありません。

本教材には、子どもたちの強みを生かしながら苦手を補い、一人ひとりに異なる多様な学びを後押しするための工夫が織り込まれています。英語を学び始めて間もない子や、基礎を固めたい子どもたちへの指導にぜひご活用ください。

### 本教材の4つの特長

#### 1. 音の「足し算・引き算」に慣れる

英語を苦手とする子の多くが、単語の読み書きでつまづいています。音を足す（ $p + ink = pink$ ）、引く（ $pink - k = pin$ ）、入れ替える（ $stop \Leftrightarrow step$ ）といった感覚を養い、読み書きのハードルを下げます。

#### 2. 主体的に学ぶ姿勢を育む7：3の比率

小学校で学ぶ語（約7割）の間に、教科書にはないが日常で見聞きする語（約3割）を配置しました。前後の語の読みを参考に、暮らしとも結びつけながら、子どもたち自身が考えて読む姿勢を育みます。

#### 3. 気づきをうながす単語配列

team や teach、peach など、共通する要素を含む語を連ねることで、ea は「イー」、ch は「チ」など、単語のつづりと音との間にある規則性への気づきを促します。

#### 4. 学びを「日常の習慣」に変える形式

毎日の生活の中で自然と英語が目に入るように、カレンダーという形式を採用。「ちょっと苦手」という子も、机に向かわなくても、毎日少しずつ「発見」を楽しむことができます。

## 学校などでの活用法

### ■ 導入の準備

「はじめての英単語カレンダー」を拡大コピーし、子どもたちの目につきやすい場所に掲示してください。

### おすすめの利用プラン

#### ■ プランA

限られた時間を生かして、基礎を固める

##### - 1<sup>st</sup> Step（導入：3～10分程度）

月の初めに、「どんな単語が取り上げられているか」「読める単語はあるか」など、子どもたち自身に目を通させたら、「動画：きいて、うたって、身につく！ はじめての英単語カレンダー」を見て、読み方を確かめます。

##### - 2<sup>nd</sup> Step（定着：2～3分程度）

授業の初めに、動画を見たり歌ったりしたら、その内の1～2語を取り出して「ドゥ・オ・グ dog」のように言いながら、机の上で「指書き（空書）」を行います。

##### - 3<sup>rd</sup> Step（まとめ：各自のペースで）

月の終わりなどに、専用練習シート配布して、最初は単語を見ながら指書き、慣れたら文字わくと単語の意味だけを見て英語罫線内に書くようにします。すき間時間を利用するなどして、自分のペースで練習できるようにします。

## ■ プランB

じっくりていねいに、学ぶ力を育む

### - 1<sup>st</sup> Step (導入：5～10分程度)

- ① 週の初めに、カレンダーの単語を5～7語くらいずつ、子どもたち自身に読みを考えさせます。
- ② 「動画：聞いて、うたって、身につく！ はじめての英単語カレンダー」を通して見て、語の読み方を確かめます。
  - ・ 教科書には出てこない単語もあることを伝え、「初めて見る単語は読めなくても当然」「間違えてもいいので、自分で考えることが大切」であることを確認します。
  - ・ 動画は、一人ひとりに合ったスピードで視聴することをお勧めします。

### - 2<sup>nd</sup> Step (定着：3～5分程度)

- ③ 授業の初めに動画を見たり歌ったりしたら、「dot / ? / jog」のように板書し、「この間には何という単語が入っていたか」とたずねます。
- ④ いくつかの語を取り出して、「ドゥ・オ・グ dog」のように言いながら、机の上で「指書き（空書）」を行います。
  - ・ ③では、必要に応じて文字わく、単語の意味をヒントとして加えていきます。
  - ・ 暗記が目的ではないので答えられなくてもよいこと、考えることに意味があることを確認し、動画を再視聴します。
  - ・ 指書きの際にも、つづりを「形」として捉えやすくする文字わくを添え、視覚記憶を生かせるようにしましょう。

### - 3<sup>rd</sup> Step (まとめ：各自のペースで)

- ⑤ 月の終わりなどに専用練習シート配布して、最初は単語を見て「ドゥ・オ・グ dog」のように言いながら、机の上で「指書き（空書）」を行います。
- ⑥ 何度か練習したら、文字わくと単語の意味だけを見て、英語罫線（4線）内に書くようにします。
  - ・ 鉛筆書きは各自時間を見て行うようにするなど、自分のペースで練習できるようにします。
  - ・ 時間にゆとりがあれば、タイピング・アプリで前月の単語を復習するなどします。まず発音を聞き、文字わくも参考にしながら練習するようにします。

## ■ さらに学びを広げるオプション

休み時間の活用： 休み時間にカレンダーを上から下に、下から上に少しずつ読むことを推奨します。

放送の活用： 給食や掃除の時間などに準拠動画の音声を読み、耳からのインプットを増やします。

語彙の拡張： teamからbeam（光線）など、カレンダーにある単語をもとに、新しい単語を考え出す遊びを取り入れます。単語の有無は電子辞書等で確認し、探究心を刺激します。

他教材との連携： 「回転英単語カード」などの具体物と併用することで、より効果的に音と文字の規則性を定着させられます。

動画視聴やタイピング・アプリなどはこちらから

教材シェアサイト



<https://www.rise-plus.net>

お問い合わせ



特定非営利活動法人

リヴォルヴ学校教育研究所

© ONOMURA Satoshi 2026

✉ [info-rise@rise.gr.jp](mailto:info-rise@rise.gr.jp)